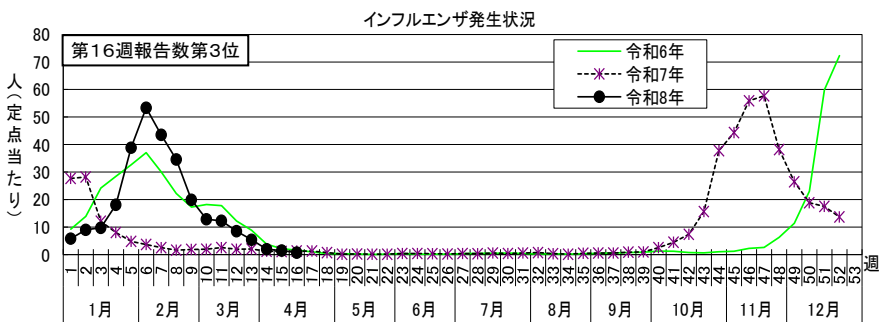
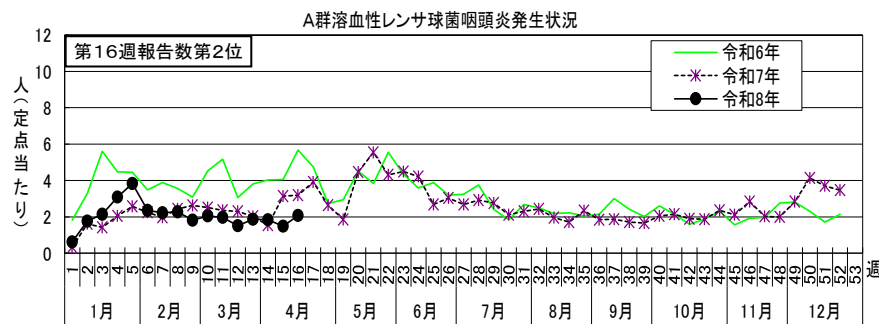
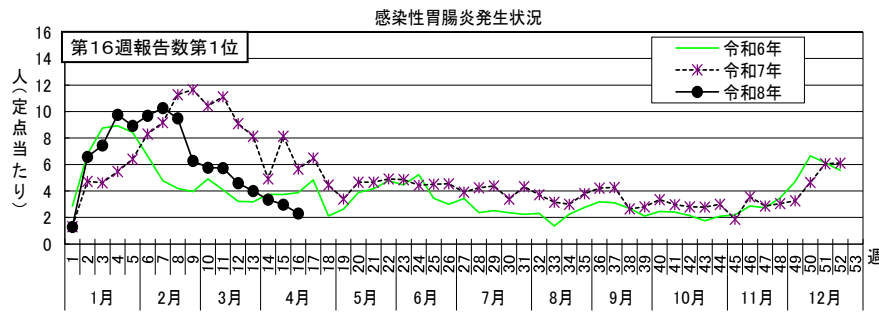


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年4月13日（月）～令和8年4月19日（日）〔令和8年第16週〕の感染症発生状況

第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.30人と前週（2.97人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（1.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.75人と前週（1.50人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

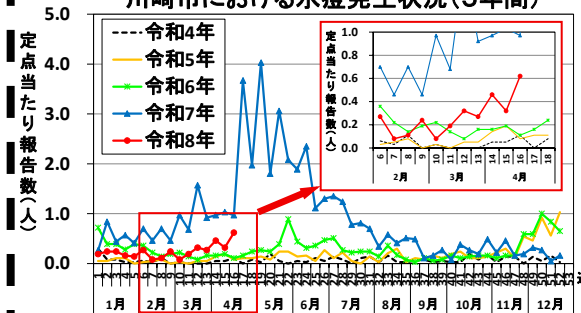


水痘(みずぼうそう)の報告数が徐々に増加しています！

川崎市における水痘の定点当たり報告数は、令和8年第10週（3月2日～3月8日）は0.08人でしたが、その後徐々に増加しており、第16週（4月13日～4月19日）には定点当たり0.62人となりました。

水痘は、水ぼうを伴う発しんが全身に出現する感染症です。感染力が非常に強く、重症化した場合、肺炎や脳炎等を合併し、まれに死亡することもあります。水痘の重症化予防には2回のワクチン接種が有効です。水痘ワクチンの定期接種は、生後12か月から生後36か月までのお子さんが対象であるため、ワクチン接種対象で未接種のお子さんは、早めに接種を済ませましょう。

川崎市における水痘発生状況(5年間)



水痘とは？

【病原体】

水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）

【感染経路】

飛沫感染、接触感染、空気感染

【潜伏期間】

2週間程度（10～21日）

【症状】

水ぼうを伴う発しん、かゆみ、発熱等

※成人の初感染は重症化しやすく、水痘肺炎等の合併症を併発し入院が必要となることもあります。

【予防対策】

水痘ワクチンの接種、手洗い、マスクの着用

知っていますか？～帯状疱疹～

帯状疱疹は、水痘と同じウイルスを原因とする疾患で、強い痛みを伴う発しんが出現し、痛みが長期間残ることがあります。子どもの頃に水痘にかかるとうイルスが体の中に潜伏し、加齢や疲労等で免疫力が低下した際に発症します。

